



あづま旅館女将

さいとう ゆりこ
齋藤 百合子さん

1951 年生まれ

会津若松市出身

あづま旅館で女将を務めるかたわら、NPO法人「クラブまちてらす」や「ペリノカンパニー」を設立し、地域を元気にする活動をしている。

現在の活動について

旅館業ですので、泊まりに来る方からいただく様々な情報を喜多方に発信しています。そのかたわら、「女性の視点でのグリーン・ツーリズム」事業の推進や、地元の高校生も誘って、月に1回地域づくり懇談会を開催し、地域の問題について話し合っています。

活動を始めたきっかけ

平成 17 年の会津ディスティネーションキャンペーン（JR との協働による大型観光キャンペーン）に参加したことがきっかけです。何人かの仲間と会津の神社や仏閣を巡り、誰が見ても分かる「極上」の地図を作るようになりました。かかわる人や地域が徐々に広がり、「まほろばの地図」として完成しました。この事業を通じ、多くの方と触れ合うことができ、また、私にも何かできるんだと思えて本当に嬉しかったです。女性でも一生懸命に物事に取り組むと、いろいろな方とつながることができることを実感しました。そこから講演会や勉強会に参加し、物事を地域に具現化するようになり、子育て支援団体の設立やグリーン・ツーリズムでの活動につながりました。



会津まほろば街道絵地図

齋藤さんがデザインした絵地図。喜多方駅などにも飾られ、手ぬぐいにもなっている。

NPO 法人クラブまちてらすの設立

地域の中で自分なりに何ができるかを考えた時に、女性が活躍できるようなことはないかなと思いました。平成 19 年に「蔵のまちづくり博覧会」に参加した時に、女性同士が集まって空き蔵をどう利用するか話し合う機会があり、その中で、女性が仕事や子育てに不安を抱いていることを改めて感じました。私もそうでしたが、若い人は自分のことや子育てのことで精一杯なんですよ。ですから、女性や子どもを取り巻く環境が少しでも良くなるようなお手伝いをしたいと思い、女性の仲間数人で「クラブまちてらす」という NPO 法人を設立しました。

現在は、「ファミリーサポート事業」を行い子育てと仕事の両立を支援しているほか、「きたかた子どもステーション※」というお母さんや子どもの休憩場所をふれあい通りに開放していて、商店街の活性化にもつながっています。また、最近は家庭を訪問し、親に寄り添いながら話を聞く「ホームスタート」という傾聴ボランティアを始めました。様々な課題はありますが、事業は少しずつ拡大しています。

※きたかた子どもステーション

子ども連れの観光客や買い物客が、おむつ替えや授乳、休憩などのために自由に利用できる空間

場所：ふれあい通り沿い(さがら呉服店隣) 時間：10:00～16:00 (毎週木曜日はお休み) 電話 0241-22-5577

広がるまちづくりの輪

ディスティネーションキャンペーンでの活動がきっかけで、喜多方建設事務所の方から声かけがあり、平成 20 年に中心市街地地域づくり懇談会を立ち上げました。地域づくり懇談会というのは、地域にある大小様々な悩みをみんなで話し合ってひとつひとつ解決していく場です。地元の高校生や先生、ボランティアガイドの皆さん、地域を良く知ってお年寄りに声をかけて、月に 1 回勉強会をしています。ここから、夜の裏道をやさしく照らす「根曲がり竹行灯」や古代文字の看板などが誕生しました。

また高校とは、グリーン・ツーリズムの分野において、アスパラなど収穫した野菜や空き地・空家の情報を一元化して、各地に発信する仕組みづくりをグリーン・ツーリズムサポートセンターと連携して行うこととなりました。

「1 人の学者より 100 人のおせっかいおばさんがいた方が良い。」というのが持論ですが、どんなに素晴らしい考えだって、実行したり地域になじまなければ意味がありません。誰もが発言し参画できるような地域になることを望んでいます。

私自身、何かある度、いろいろな人を巻き込んでいますが、“つなぐ”ことは絶対に大事だと思います。これからも興味深くアンテナをたてて、様々なことを吸収し、それを上手に地域に伝えることを忘れず、地域全体の底上げを図っていきたいと思っています。“まちの陽気なメッセンジャー”みたいな雰囲気でもいいのかな。

ベリノカンパニーの設立と女性のためのグリーン・ツーリズム

平成 22 年に市で開催された IT 関係の講演会で、「まちは、やりようによってはすべてが会社、工場、企業になる。地域にあるものは、地域の宝となる。」との話を聞きました。深く感銘を受け、会津の木綿を使った取組を考えました。布の無限の可能性を想像し、便利な布だから“ベリノ”、“ベリノカンパニー”という名前が思い浮かびました。

その後、内閣府の農村六次化プロジェクトに応募し、「ふるさと起業家」として認定され、正式にベリノカンパニーを立ち上げました。布を作るにあたって、まずは農家の方に声をかけて綿を作ることにしました。現在は 12 軒の農家の方が綿作りをしており、中には機織り体験ができる農家もあります。これと農家の冬の手仕事である「一閑張り」(竹籠など壊れた箇所を古布や古紙を貼り、柿渋を塗って再利用したもの)を組み合わせ、「女性のためのグリーン・ツーリズム」としてモニターツアーを何度か実施し、「いや、楽しい。喜多方のグリーン・ツーリズムって。」と喜ばれました。震災後も、このモニターツアーをしていたおかげで、リピーターもいましたし、すぐに次の企画を練ることができました。

また、今年の 2 月には、冬まつりにあわせて、市内や農家のお母さん方で作品を持ち寄り、蔵を使った「小さな蔵ふと(クラフト)展」を開催し、多くの方においでいただきました。

11 月には、野良着のファッションショーを実施しましたが、一緒に活動した農家のお母さん方も、「楽しかった、元気が出た。」などと話していて、小さなファッションショーがみんなの大きな活力となりました。



「野良着」ファッションショーの様子

ベリノカンパニーが企画し、めんこいくらぶが中心となって活動したプロから市民モデルまでが着こなす野良着のファッションショー、その名も“ナニ・コレ パリコレ”。

11 月 14、15 日に喜多方市で開催された「第 12 回全国グリーン・ツーリズムネットワーク福島大会」にて実施された。

工夫を凝らした野良着やモデルの様子に、会場は温かな拍手と笑い声であふれていた。

活動する上で感じること・大切にしていること

女性が外に出ることは大変なことです。しかし、今しかできないこと、興味のあることはやってみたい、旅館業や家庭も大切、そんなジレンマの中で、何もかも中途半端にして「やっぱり女は駄目だな」といわれることのないように、「受けた仕事は最後までやり通す」ということを大切にしてきました。

これからは、地域にかかわり、社会に対しても責任を持って発言できる女性が増えてもらいたいです。子育て中の方や若い方には中々難しいというのも事実です。ただ、女性もちゃんとした意見をもっている方はたくさんいます。

外にでるためにはまず、家庭のなかで Win-Win(双方に利益があるような)の環境を作る必要があります。私はまず夫と話し合い、基本となる旅館を大切にしながら、地域活動ができるよう、旅館の運営方法などを工夫しました。そして、本当に大切なのは夫をはじめとする家族の理解です。また出るのかと言われた時期もありましたが、今は私の活動を理解してくれています。また、思い出深いことは、義母が最大の理解者だったことです。私は仕事をしながら、時間があれば人を呼んで旅館に常に笑い声が聞こえる状態にしていました。はじめはあまり納得していなかったと思いますが、最後は私の仲間と一緒にビールを飲んだりご飯を食べたり、とても楽しそうでした。



今後の展望

ベリノカンパニーでは地元の企業と協力して布地を開発し、地元のお店で販売しています。こういった地域から生まれた商品の開発・販売を拡大していきたいと思っています。また、綿は和綿として企業に販売する方針を固め、種は将来的に綿実油にしようと考えています。それに事業が大きくなれば雇用も生まれますからね。^o^

また、喜多方を日本一のグリーン・ツーリズムの拠点にしたいです。そのために、顧客に対して農家の特徴やサービスなどの適切な情報を提供できるよう整備するとともに、農家民宿の方と協力してお客様により喜んでいただける環境をつくっていききたいと思います。

かつて喜多方はまちと里山に大きな経済の流れがありました。蔵のまちといわれる理由の一つとなっています。里山の豊かな食と自然、町にある伝統や文化。これを女性の視点でとらえたツーリズムとしてどんどん提案していきたいと思っています。

まちは“一枚の布”

まちは、一枚の布と考えています。縦糸が男で横糸が女、縦糸がしっかりした中で横糸が色鮮やかな模様を描く。どちらもまちづくりには必要なのです。

また、まちは誰かのものではなく、みんなのものだという思いがあります。それぞれがそれぞれの自由なやり方でまちにかかわり、いつしか美しく丈夫な一枚の布になれば最高ですね。糸に関する漢字には、結・絆・紡・紐・絹・緑…などたくさんあって、まちづくりの想像が膨らみます。

～活動略歴～

- 平成 17 年 会津ディスティネーションキャンペーンに参加し、「会津まほろば街道絵地図」を作成。
- 平成 21 年 子育て支援を目的に NPO 法人「クラブまちてらす」を設立。
- 平成 22 年 市で開催された講演会に参加し、地域にある素材を用いた事業を発案。翌年に内閣府の農村六起プロジェクトに応募し、ふるさと起業として「ベリノカンパニー」を立ち上げる。
- 平成 24 年 綿を栽培する農家のお母さん方と協力し、「めんこいくらぶ」を設立
- 平成 25 年 喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンターの理事となる。

